

設案ダム建設予定地には国の天然記念物ネコギギが生息しており、ダム建設によって生息環境に影響を与えることが予測されています。このため、設案ダム工事事務所ではネコギギに対して環境保全措置を実施するとともに、豊川水系のネコギギの保全に取り組んでいます。



# ネコギギ 調査ファイル

No.1 2009/3/23  
国土交通省 中部地方整備局  
設案ダム工事事務所

NO.1

ネコギギとは？  
～ ネコギギの分布、体サイズ、生態、繁殖など ～

## ネコギギとは

**ネコギギ (Pseudobagrus ichikawai)** は、ナマズ目ギギ科の日本固有の純淡水魚です<sup>1)</sup>。

### 分布

ネコギギは、伊勢湾及び三河湾に注ぐ河川の中流域から上流移行域にのみ分布しています<sup>1)2)3)</sup>。

### 希少種としての指定

昭和52年(1977)に国指定の天然記念物に指定<sup>2)</sup>されており、環境省のレッドリストでは絶滅危惧IB類<sup>2)</sup>に、愛知県レッドデータブックでは絶滅危惧IB類<sup>3)</sup>に、それぞれ指定されています。

### 生息環境

生息場所は、主に河川中流域の平瀬から淵で、河床が大小の礫で占められ、水深が50cm以上あるような緩流部に棲んでいます<sup>4)</sup>。

### 生態

ネコギギは典型的な夜行性魚類で、昼間や冬期などの非活動期には、川岸や岩の下などにできる隠れ家(横穴)の中に潜んでいます。水温が15を超える時期(5~9月)を中心に、夜間、活発な索餌遊泳を行います<sup>4)</sup>。

長良川水系の事例<sup>5)</sup>から、成長速度が速いのはオスであることが推測されています。長良川水系のネコギギでは、メスの肥満度のピークが6~7月であることから、自然下での繁殖もこの時期であると考えられます<sup>5)</sup>。

また、ネコギギの体サイズは性的二型を示し、メスよりもオスが大型になることが、長良川水系や員弁川水系の事例から知られています。



図 ネコギギの成魚

## 繁殖

ネコギギのオスは、2歳で成熟に達し繁殖が可能だと考えられます。ただし、繁殖時の他のオスとの争いを考慮すると、体が大きくなる3歳以上で繁殖に参加すると推定されます<sup>5)</sup>。ネコギギの繁殖場所は、積み石や石積み護岸の隙間と考えられます。長良川水系の個体を用いた飼育実験では、繁殖期にオスは隠れ家周辺に繁殖縄張りを持って他個体へ攻撃行動を示しており、繁殖はこの縄張り内で行うと推測されています<sup>5)</sup>。

表 ネコギギの活動周期

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
非活動期				繁殖期				非活動期			
活動期											

## 食性

日没後に胃内容充満度が高くなる事例<sup>5)</sup>や、行動が活発化する観察結果などからも、ネコギギは夜間に摂餌していると考えられます。索餌遊泳は、河床の礫や川岸の抽水植物などの表面に、顎鬚に沿わせながらゆっくりと行います<sup>4)</sup>。主に底生動物を餌にしていますが、特に動きが遅い水生昆虫(マダラカゲロウ科、ウスバヒメガガンボ属、ユスリカ科など)を多く食する傾向があるようです<sup>5)</sup>。

表 胃内容物から見たネコギギの食性<sup>5)</sup>

餌生物	概要
サイズ	ネコギギの体サイズと餌の最大体重に正の相関 大型のネコギギは、小型~大型の餌を利用する
種類	底生の水生昆虫。稀に仔稚魚、ミズダニ等
季節性	季節変化は環境の餌生物量の消長に関連

## 豊川のネコギギ

### 分布

豊川では上流の本川や支川に生息していることがわかっています。しかし、聞き取り調査等から、昔に比べて豊川では生息域や個体数が減少していることがわかりました。

### 生息環境

豊川では、実施された生息環境調査等の結果による解析から、勾配が緩い、流速が20cm/s未満、隠れ家となる横穴が多い、大きめの淵等が生息できる条件ではないかと考えられています(詳細はネコギギ調査ファイルNO.3にて説明します)。

### 繁殖の時期

豊川で捕獲した個体を用いた繁殖実験では、7月に3例の産卵行動が確認されました。(性腺刺激ホルモンの投与無の個体) 総産卵数は800~1400粒程度でした。

年度	オス	メス	産卵日	産卵数	孵化日	孵化数
H19年度	5c	5c	7/7	1423	7/10	192
H19年度	12c	2c	7/19	841	7/22	122
H20年度	10c	2c	7/26	798	7/30	457

### 孵化

飼育下では、長良川水系のネコギギでは受精の約60~80時間後<sup>5)</sup>、豊川のネコギギでは約3日後に孵化が確認されています。孵化直後の全長は約5mmでした。稚魚飼育実験によって、成長の過程が明らかになりました。



ネコギギの卵

ネコギギの稚魚

## 食性

豊川水系で、ネコギギ胃内容物を調査(吐き戻し)したところ、葡萄型のエラブタマダラカゲロウが最も多く捕食されていた(湿重量比)。一方、環境中に多いのはユスリカ科でした。これらのことから、豊川のネコギギも他河川と同様に、動きの遅い底生動物を中心に捕食している傾向があることがわかります。

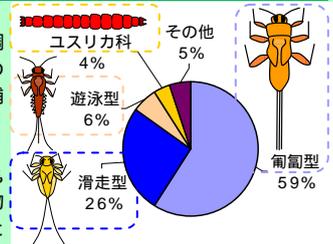


図 豊川産ネコギギ32個体における胃内容物の重量比(平成12年7月)

## 体サイズ

豊川で得られたデータでは、オスの方が大型になる傾向がありました。また、支川では、本川に比べ大型個体の割合が低くなる傾向がありました。

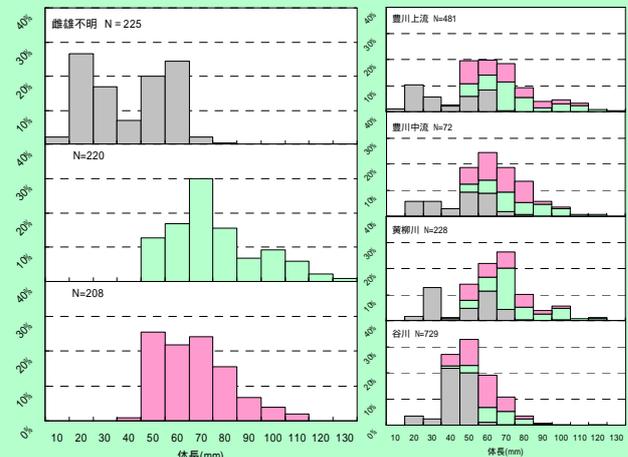


図 豊川産ネコギギの体長組成

図 調査地域別の体長組成

## 【引用・参考文献】

- 1) 川那部浩哉・水野信彦・細谷和海編監修(2001):日本の淡水魚, pp.408-409, 山と溪谷社。
- 2) 環境省(2003):改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブック 汽水・淡水魚類-, p.231, 財団法人自然環境研究センター。
- 3) 愛知県編(2002):愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち x d x d 1 1 1 1 2-動物編-, p.179, 愛知県環境部自然環境課
- 4) 水産庁編(2000):日本の希少な野生水生生物に関するデータブック, pp.154-155, 日本水産資源保護協会。
- 5) 渡辺勝敏(1995):ネコギギ *Pseudobagrus ichikawai* の自然史, 306pp, 東京水産大学博士學位論文。